

ご当地 自慢

愛知県 新城市

24

愛知森林管理事務所

◆道の駅「もつくる新城」

江戸時代から桜で有名な桜淵がある新城市は、城下町を中心とした県内で二番目に広い自治体です。古くは豊川の水運と信州方面への伊那街道を結ぶ中継地として栄え、「山の湊」とも称された交通の要所でした。

その新城市で三月二十一日、新東名高速道路の新城IC（インターチェンジ）



「もつくる新城」の正面入口

と国道一五一号新城バイパスとの結節点に、道の駅「もつくる新城」がオープンしました。

市内各所で建設工事が行われてきた新東名高速道路は、浜松いなさJCT（ジャンクション）～豊田東JCT間の開通が一年延期され、平成二十七年年度末になってしまいました。が開通すれば新城ICは奥三河地域の玄関口となることから、「奥三河観光ハブステーション」に位置付けられており、地域の魅力を発信するとともに、人が集い交流する地域の拠点として期待されています。

・名称の意味

「もつくる」とは、木材・来るの意味です。温もりを感じる木材をふんだんに使用、地域の産物を余すことなく活用し、人々集まる（来る）活気あふれる道の駅をイメージしています。

・施設概要

奥三河産のスギやヒノキを活用したアーチ形の屋根の建物で、中に入ると木の柱や格子状にデザインされた天井が印象的です。

長篠・設楽原の戦いの「馬防柵」をイメージしたとされる男性用トイレは、木組みの壁で外からの明かりを活かした造りで、女性用は奥三河地域の観光資源が紹介されているそうです。

建物の奥を抜けると野外ステージが設けられており、新城市四谷の千枚田をイメージして作られた棚田ベンチに腰掛け



千枚田をイメージした棚田ベンチとステージ

て、イベント等を楽しめるようになっていきます。

また、駐車場の近くには観光案内所や「足湯」が設けられており、名湯「湯谷温泉」のお湯を楽しむことができます。



駐車場の足湯

構造 木造二階建て
延べ面積 一、〇七三・六九平方メートル
営業時間 九時～一八時
駐車場 普通車七五台 大型二三台
身障者用二台

・売店等

入口付近は定番のスナック屋台、内部では「お惣菜バイキング」や、猪肉を使った「ししラーメン」などのジビエ料理も楽しめます。また、東三河の特産品が数多く揃えられ、間伐材を利用した「丸太コンロ」や薪まで販売されています。

近くにお越しの際には是非ご覧になっては如何でしょうか。



店内の様子

アクセス方法

「自家用車」東名高速道路「豊川IC」から国道一五一号線を北へ約三〇分